

2 認知症の基礎知識

① 認知症ってどんな病気？

認知症は、原因となる脳の病気によって特徴があり、代表的なものは次の4つです。

① アルツハイマー型認知症

原因

はっきりしていませんが、脳の神経細胞が徐々に減少し、脳が小さく縮んでいくために起こります。



症状

物忘れが徐々に現れ、ゆっくりと進むのが特徴。

- ・昔の記憶は残っているが、新しいことは覚えていくことができない。
- ・判断力の低下。
- ・時間や場所がわからなくなる。
- ・物盗られ妄想や不安・イライラ。
- ・暴言・暴力などの症状。

② レビー小体型認知症

原因

脳の神経細胞の中に「レビー小体」と呼ばれる異常なたんぱく質の塊がみられ、このレビー小体が脳にたまることによって起こります。



症状

頭がはっきりしたり、ボーッとしたり、日によって変動することが特徴。

- ・実際にはないものが見える「幻視」。
- ・壁のしみが虫に見えるなど「錯視」等の症状。
- ・手足が震える、小刻みに歩くなどパーキンソン症状。
- ・物忘れは軽い。

③ 前頭側頭型認知症(ピック病)

原因

原因はわかりませんが、脳の前頭葉や側頭葉前方で神経細胞が減少し、脳の萎縮(縮んで小さくなること)が目立つのが特徴。



症状

暴力的になるなど、人格の変化や行動障害が主として現れるのが特徴。

- ・物忘れは現れにくい。
- ・遠慮がなくなり、自己本位。
- ・突然万引きや信号無視など異常行動をとる。
- ・何かに関するこだわりが異常に強くなり、柔軟な対応ができず、好き勝手に行動をする。

④ 脳血管性認知症

原因

脳梗塞や脳出血によって、脳に栄養や酸素がいきわたらなくなるため、その部分の神経細胞が死んだり神経ネットワークが壊れてしまうことで起こります。



症状

物忘れなどの症状が突然現れたりその後になって階段状に悪化したり変動したりします。

- ・物忘れが強いのに、判断力や理解力は問題なく保たれているなど、「まだら認知症」。
- ・脳がダメージを受けた場所により、手足のマヒ、ろれつが、回りにくい。
- ・感情のコントロールができないなどの症状。

② 認知症の症状

中核症状

すべての認知症の人に出現します。

記憶障害

体験や出来事を忘れる、新しいことが覚えられない。



見当識障害

時間、日付、季節感、場所や人間関係などがわからない。近所で迷子になる。



実行機能障害

旅行や料理など段取りが立てられない、実行が難しい。言葉がうまく使えない。



理解・判断力の低下

考えるスピードが遅くなる。2つ以上のことの同時処理が困難になる。



中核症状に、不安や心身の不調、周囲の適切でない対応などが影響すると

行動・心理症状

性格や環境など様々な要因が絡み合って出現します。

妄想、幻覚、うつ、異食、睡眠障害、無気力、徘徊、暴言・暴力などが起こる場合もあります。ただし、適切な治療や周囲のサポートで認知症の人が感じている精神的・身体的ストレスを取り除くことによって、ある程度の予防や緩和が可能です。

焦らず、ゆっくり、本人のペースに合わせて一緒に行いましょう。適切な対応をするため医療や介護について勉強しましょう。介護サービスなどを利用しましょう。**誰よりも心配し、苦しみ、悲しんでいるのは、認知症になった本人だということを考えながら接することが大切です。本人の気持ちになって対応することを心掛きましょう。**